

# スクール・フォー・アフリカ 2018年度 ご支援報告

学習環境や衛生習慣を改善し、男女格差を解消することを目的とした「子どもにやさしい学校」。ユニセフは、障がいのある子ども、女の子、学校に通っていない子ども、難民の子どもといった、特に支援を必要とする子どもたちを取り残すことなく、「子どもにやさしい学校」モデルを全国の学校へ導入するために尽力してきました。日本の皆さまからの貴重なご寄付は、ブルキナファソの子どもたちが清潔で安心できる環境の中で質の高い教育を受けられるようにするための大きな支えとなっており、子どもたちの教育環境は確実に改善されています。継続的なご支援に心より御礼申し上げます。

	2010年	2018年	(目標) 2021年
幼稚園の総就園率	2.8%	4.1%	15.0%
小学校の総就学率*	74.8%	90.0%	106.3%
小学校の修了率	45.8%	63.2%	100%
中学校の進学率	54.2%	73.0%	93.2%

※年齢に関わらず小学校に就学する子どもの人数が、小学校の就学年齢の人口に占める割合。事情により小学校への就学が遅れた子どもなどが多い場合、就学率が100%を超える場合がある。

©UNICEF/Burkina Faso/2018/Figura

## 1 清潔で安全な学びの環境を整える

- 6つの幼稚園、6つの小学校、2つの中学校の校舎建設と設備の設置や5つの小学校の校舎改修を実施し、教育を受けられる子どもの数が大幅に増えました。
- サヘル地方の50校で「衛生クラブ」を設立。給水設備の適切な使用と管理のための研修を実施し、子どもたちや教員による管理が可能となりました。
- よい衛生習慣を身につけ、コレラなどの感染症を防ぐため、手洗い器600個、給水所900カ所を設置し、石けんとトイレを衛生的に維持するための洗剤を含む衛生キット150個を提供しました。



©UNICEF/Burkina Faso/2018/Figura

## 目標達成に向けて

ユニセフは引き続き、3歳から16歳(ブルキナファソの基礎教育期間)の子どもたち、特に障がいのある子どもや遠隔地で暮らす子どもが、男の子、女の子の分け隔てなく、基礎教育を受け、修了できるよう支援を続けていきます。現在、1,266校で「子どもにやさしい学校」が導入されており、ユニセフは2019年、さらに350校に拡大することを目指しています。また、過激派グループの襲撃から子どもたちを守り、安全な学校を実現するため、緊急対応計画の作成や心理社会的ケアの研修などを含む、学校における緊急時の対応力を高めるための取り組みや、休校により学校に通うことのできない子どもたちのためのラジオ教育プログラムの強化と拡大を進めています。

皆さまからの引き続きのご理解、ご支援を心よりお願い申し上げます。

©UNICEF/Burkina Faso/2018/Figura

## 2 質の高い基礎教育を子どもたちへ

- サヘル地方の学校200校の教員800人と中東部地方の学校150校の教員600人に「子どもにやさしい学校」モデルに基づいた研修を実施しました。研修により、子どもを中心とした参加型の教授法や子どもへの心理社会的ケアの提供が可能になります。
- 教員265人と教育指導者78人が、公用語であるフランス語の読み書きのための「スピード学習\*」の研修を受け、88校の子ども9,000人が同学習を受けました。  
\*早い段階で子どもたちがアルファベットの読み書きを習得できるよう、最初に発音を教えて、その発音と関連付く単語を子どもたちが考えて作りながら学んでいく方法。
- 60カ所の地域早期幼児開発センターで、0~6歳の子ども4,500人に教育支援を実施しました。
- 就学前教育のための地域の保育士180人と学校管理委員会メンバー50人が教育の質を改善できるよう能力強化も実施しました。
- 学校管理体制の質をさらに改善するため、学校管理委員会のモデル検証を開始しました。



©UNICEF Burkina Faso

## 3 1人の子どもも取り残さない

- セノ県のグデブ難民キャンプで、3~5歳までの子ども1,360人(うち女の子700人)に学習支援を実施。また、難民キャンプとその地域の人々約5,000人を対象に、栄養や衛生習慣に関する意識の向上や、子どもの心身の発達における遊びの重要性への理解の促進に努めました。
- 女の子が生理を理由に学校に通えなくなることを防ぐため、「月経に関する衛生管理クラブ」を設置。クラブでは、月経に関連した社会的スティグマ\*と闘うことや、女子生徒に生理の処理方法を教えることを中心に活動し、月経の問題について男女問わず5,742人の生徒が知識を得ることを目指しています。また、現地での生理用ナプキンの製造開始を支援。より手に届く価格帯でのナプキンの製造を実現し、女の子の学習継続が期待されます。  
\*汚名の烙印を押されたり、差別を受けたり、屈辱感や劣等感を感じること
- 小学校と中学校での教育において男女間の教育格差に大きな前進が見られました。2018年、女子の小学校修了率67.6%は、男子の58.8%を超え、また、女子の中学校修了率42.1%は、男子の39.2%を超えました。



©UNICEF/Burkina Faso/2018/Figura

